

平成26年度 第2回 静岡市スポーツ推進審議会会議録

- 1 日 時 平成26年8月28日(木) 14時から16時まで
- 2 場 所 静岡市役所静岡庁舎 9階 特別会議室
- 3 出席者 【委員】(50音順・敬称略)
青木孝輔、池谷孝、石川壽将、太田仁美、佐藤伊都子、佐藤栄作、
瀬戸脇正勝、堀和弘、松崎晃、村越真、百瀬容美子、山本尚佳
【事務局】
西ヶ谷隆司文化スポーツ部長、山田裕オスポーツ振興課長、
秋山健ホームタウン推進担当課長、鈴木達也課長補佐兼総務係長、
望月哲也主幹兼ホームタウン推進係長、
望月啓生主幹兼葵・駿河施設係長、高須修主幹兼スポーツ振興係長
齋藤康徳指導主事、佐藤知己主任主事
- 4 欠席者 大儀見浩介、小川菊治、渡辺典子
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 題 (1) スポーツ推進計画における主な取り組み事業一覧表について
(2) 静岡市スポーツ推進計画の構成について ほか
- 7 会議内容 下記のとおり

司会(鈴木課長補佐)

本日は、お忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。それでは、ただいまから平成26年度 第2回静岡市スポーツ推進審議会を開催いたします。まず、お手元の資料の確認をさせていただきます。次第、・・・・・・・・・・、よろしいでしょうか。

次に、毎回のことですが、議事に入る前に確認事項がございます。本審議会の会議録でございますが、静岡市のホームページにおいて公開をさせていただいております。この公開には、会長と委員1名に会議録確認の署名が必要となりますので、ご了承くださいませようよろしくお願いいたします。

それでは、村越会長、議事進行について、よろしくお願いいたします。

村越会長

今の情報公開の件については、よろしいでしょうか。本審議会では、私のほかどなたか一名の委員に、会議録への署名をお願いしております。今回は、松崎委員にお願いしたいと思っておりますがよろしいでしょうか。会議録が出来ましたら、後日、内容のご確認とご署名をよろしくお願いいたします。

それでは、会議をはじめるときに、本日の出席者の確認をしていただきたいと思います。事務局、お願いします。

事務局（佐藤主任主事）

本日のご出席は15名中ただいま10名のご出席をいただいております。審議会開催に必要な定足数（過半数）を満たしております。既に本日欠席のご連絡をいただいております、大儀見委員、小川委員、渡辺委員からは、委任状をお受けしております。また、池谷委員は若干遅れる旨の連絡をいただいております、佐藤伊都子委員もこちらに向かっているものと思われま

事務局からは以上となります。

村越会長

それでは、早速審議に入りたいと思います。本日は議事ということで2点ありますけれども、最初の審議事項は「静岡県スポーツ推進計画における取り組み事業一覧表」ということです。では事務局から説明をお願いします。

事務局（佐藤主任主事）

それでは事務局よりご説明します。お手元の資料1「スポーツ推進計画における「主な取り組み事業」一覧表」をご覧ください。前回の審議会でご指摘いただきました、「実施目標」の内容がこのままでは目標となっておらず、また、事業の概要もわかった方がよいのでは、という意見を取り入れ、「主な取り組み事業」と「実施目標」の間に「事業概要」の欄を加えました。

また、検証及び振り返りを確実に実施するためにも、実施目標をできるだけ数値化できないかということで、今記入してあるものは案になります。関係各課および団体に確認を取っているところですので、確認され次第新たなものになっていきますが、今回はイメージしたものとなります。今後各課から出された内容に置き換えられます。事務局からの説明は以上です。

村越会長

ありがとうございます。資料の1ということですが、確認ですが、左側の欄が今までの既存事業、それが今回の改正により右側の方に移っていき、新しい事業が追加されていると。ですから黄色で書かれた部分についていろいろご意見をいただければいい、ということですね。細かくたくさんありますので、いろいろご意見があろうかと思っておりますので、ここは自由に発言をいただき、また質問もあればお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

石川委員

よろしいでしょうか。事務局により赤字で訂正していただいた内容ですが、体育協会の項目のところ、こうしたらいいのかなという部分をお話しさせていただきます。1ページの2行目のところですが、赤字で「幼児から小学生を対象とするスポーツ教室を74教室開催する」という形になっていますが、実施目標になるべく数値を載せた方がいいという話ですので、74教室という数字は実施目標の方に記載した方がいいのかな、と。取り組み事業については、「教室を開催する」だけで、実施目標に数値を載せたらどうか、と思いました。ここを含めて4カ所ありますので、訂正をお願いできたらと思います。

それと、もう1点ですが、事務局にお聞きしたいのですが、3ページの一番下の項目になります「スポーツツーリズムによるMICEの推進とスポーツ機会の向上」部分の「国際大会や全国

大会開催のための支援」ということで、いくつか項目が挙がっておりますが、サッカー、スポーツチャンバラ、こういった競技以外で、例えば国際大会、全国大会の誘致といったようなものを静岡で開催する働きかけは、どのようになっていますか。教えていただければ。

事務局（鈴木課長補佐）

ここに記載されているのは、現在実際に行っているものになります。このMICEの推進については市長も積極的に進めていきたいという考えもありますので、具体的にどのスポーツをとすることは計画には何も書いてありませんが、そこは積極的にやっていきたいと考えております。

石川委員

そうすると、そういう項目がちょっと見当たらないんですが、ここに作らなくてもいいですか。全国大会や国際大会の誘致、のような。

事務局（鈴木課長補佐）

全国大会や国際大会がどのくらいのレベルになるのかということもあるんですが。

石川委員

体協で言うと大きい大会はワールドカップ、それとアジア大会。国内では全日本とか。バスケットでいうとWリーグですとか、プロリーグですとか。野球もそうでしょうけど、いろんなプロスポーツがあるものですから、そういった誘致という項目も欲しいかな、という感じがします。

事務局（鈴木課長補佐）

基本施策の構成になりますが、基本施策では全国大会、国際大会開催の支援となっており、具体的な種目までは絞れませんが、話としては出てきてはいます。ただ、全国大会、国際大会がどのくらいのレベルかと考えた時に、一流の選手が来るであろうということが予想され、そうなる静岡市にある施設で一流の選手が呼べるのか、というところもあります。呼びたい気持ちはありますが、あまり大きなことも言えないということもあり、検討は今後もしていきたい、と。

石川委員

それこそ、国際大会とか、プロの大会とかを誘致することが市長が言うところのMICEの推進になるかと思うので、ぜひそういったことが読み取れるような項目を作っていただければと思います。

事務局（鈴木課長補佐）

ワールドカップですと、先日も女子のバレーボールがありました。ああいったのも呼べるといいな、と思いながらも、静岡市だったらどこに呼べるのかな、と考えた時に現在の市の施設では難しいかなと。では県の草薙の体育館なら大きさは大丈夫そうだけど、お客さんはどのくらい入れるのか、静岡県で考えたら浜松アリーナなんかどうなのかと、今回の推進計画を考えるにあたり話があったりもしました。今後そういった大会が行えるような施設ができるという話もあり

ますので。

石川委員

私がそういった話をさせていただくのも、先日もアリーナ建設の件で要望を出させてもらったものですから、アリーナの建設でぜひ国際大会、全国大会が誘致できるようにしてもらいたいというような意味もございまして、そういった話をさせていただいたということもございまして、よろしくをお願いします。

村越会長

ちょっとよろしいですか。これは当然前にもやりましたスポーツ推進計画の構成に則っているわけですよね。項目としては4つ立っていて、1番目として「国際大会や全国大会の開催のための支援」、その中の事業としていくつかある、ということでもいいですよね。そう考えると、問題が2つほどあって、まずは「支援」なのか、石川委員からあったように積極的に「誘致」をするのか、というところ。それはこの審議会だけの話ではなくて、財政的な裏付けなどあると思いますけれども、「支援」なのか積極的な「誘致」なのか、というところが1つ。それからもう1つは「支援」にせよ「誘致」にせよ、いずれにしても何らかの裏付けがなければいけない、という時に、52とその下の項目は既に決まっていて、こうして記載されているかと思えますけれども、今後「支援」や「誘致」といろいろな話が出てきた時に、それをどう支援するかという枠組みが必要だと思うんですね。その時に、旧来のスポーツ振興基本計画では全国大会開催補助金制度というのがあるんですが、これは推進計画では削除になっており、どのように支援していくのか具体的な姿が見えないと思うんですが、削除されてしまった理由というのはどういうもので、今後これが復活して支援のための枠組みができるのか、この辺りはどうなっているのでしょうか。

事務局（鈴木課長補佐）

このところは今までずっとやっていたものですから、新たなところということでは外させていただきますが、支援の形が見えづらいということであれば、検討していきたいと思えます。

村越会長

恐らく全国大会にしる国際大会にしる、なかなか市が直接誘致という直ぐには踏み込めないと思えますけれども、そこに至るまでには民間なり、体協なり、それぞれのスポーツ団体の動きがあって、じゃあ市がそれをくみ取って支援していこうかと、その中で誘致していこうかと、段階的な動きがあると思うんですけれども、そういうプロセスを支援できるようにしておくのかな、と思います。何か具体的な大会を誘致しようということは推進計画には載せにくいことなんですけど、それに市として裏付けとなるものがあるといいのかな、と。

石川委員

おっしゃるとおりです。よろしくをお願いします。

事務局（鈴木課長補佐）

東静岡問題もなかなかどうなるかはっきりしないところで、開催や誘致とはっきり書けないところがあり支援という感じが無いですけれども、これもここで入れていったほうがいいのか、この推進計画も今後見直しを行っていかうと思いますので、毎年見直しを行うことはできないですけれども、8年の計画になりますので、少なくとも4年の段階では見直しを行うことにはなりますので、その時にアリーナの話がまとまってきたら出すのかこの時点で入れておくのか、またちょっと考えさせていただければ。

石川委員

市の第3次総合計画である程度位置付けられれば。

村越会長

そういう大きな計画との整合性とか、全体的に何を基調としているのかとかバランスの中でご検討いただければ。ほかにいかがでしょうか。数が多いので細かいところでも結構ですし、ざっくりしたところでも全体として、こういうところはどうなんだ、といったことでも結構です。

青木委員

一つなくなっちゃてるのがあるんですが、ねんりんピックがちょっと見当たらないようなんですが。

事務局（佐藤主任主事）

2ページ目の下から3段目に記載がありますので、ご確認をお願いします。

青木委員

この派遣者数〇人、派遣種目、というのはまだ決まってない、ということでもいいですか。

事務局（佐藤主任主事）

そうですね。こちらはまだ確定していません。

佐藤（栄）委員

よろしいですか。2ページ目の一番下のところ、「しぞ〜かでんでん体操」のところに「介護認定を受けていない人が介護予防のためにやる」と書いてありますけれども、ここにロコモティブシンドロームの予防を付け加えていただきたいです。現在メタボリックシンドロームに替わってロコモティブシンドロームを日本整形外科学会が推進しています、それを周知するために今度厚生労働省の健康21の中にも、そういう文言が入っているものですから、ここにその言葉を入れていただきたいと思います。

村越会長

はい、ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

では、私の方から1点よろしいでしょうか。さきほどねりんピックのところでも指摘があったのですが、いろんなところに派遣者数〇人とか何種目とか、となっていますが、これは目標ですから最終的に数字が入ってくると思うのですが、どんなふうにしていつ頃入れる予定ですか。

事務局（鈴木課長補佐）

それぞれが毎年やっている事業になりますので進捗管理を毎年やっておりまして、毎年年度末に数字については確認が取れ、それをまた審議会で報告をさせていただきながら、ものによっては見直しを含めて、来年度以降になりますけれども、していきたいと思っております。

村越会長

それは実態と言うか事実があって、まあそれは事実ですから自動的に入ると、また目標については何らかの形で提示されて、毎年の審議会の中で検討するということですね。わかりました。ほかによろしいでしょうか。

瀬戸脇委員

3 ページの「障害者スポーツの情報発信」は具体的にはどんな事業ですか。

事務局（齋藤指導主事）

「障害者スポーツの情報発信」ですが、現在障害者に関係する課と連携を取って話を進めている段階です。その中で、障害者の出場している全国障害者スポーツ大会への出場の状況、静岡市からどんな種目に出場した人がいて、競技の様子はどうだったのか等の紹介を含めての情報、あとは障害者スポーツの中でも静岡市で盛んにされている種目等の紹介も含めての情報発信をさせていただいて、障害者の方にこういう風に行われていますよ、という情報発信とともに、健常者の方にも知っていただくための情報発信をすることにより、ゆくゆくは交流イベントなど活性化につなげたい、という事業であるとうご理解いただきたいと思います。

瀬戸脇委員

そうすると、まだ実際には行われていなくて、これから行われていく。理解促進というのも同じように考えていけばいいですかね。わかりました。

松崎委員

1 ページ目から、教室に関してのものが、小学生は74 教室、中学生から中高年は155 教室、高齢者は151 教室、女性は11 教室、トータルで400 教室近くあります。今までは昼間84 教室と夜100 教室だったので、これが約400 教室やりますよ、というのは、今までの数では足りないからこれだけの教室を開催しますということでしょうか。また、この数字を達成する期間というのは推進計画の8年間の数値として捉えてよいのでしょうか。あと、これだけ数字が増えるということは、具体的にやる施設とか、今までやっていたものの他にも今後やることを増やしたからこれだけ教室が増える、といったことを聞かせていただければ。

村越会長

事務局どうでしょうか。

事務局（鈴木課長補佐）

ここは体協さんの事業ですけれども、ものによっては子どもと書いてあっても子どもとお母さんが重なっていたりですとか、いくつか重なっている部分があるものですから、数にした時には増えたように見えているんですが、実際は今やっている教室を継続していくのと、内容を改定していく、中には市民のニーズもありますので新たなものというのもありますけれども、推進計画の中でこれだけ数字を増やすということではないです。

松崎委員

単純に見るとものすごく数字が増えるように見えますよね。

村越会長

よろしいですか。例えば2ページ目でいくと中学生から中高年を対象としたスポーツ教室155とあって、下から2段目に高齢者を対象とした教室が151ありますけれども、この2つの数字にはダブルカウントされているものがある、ということよろしいですかね。

他にはよろしいでしょうか。細かいところではありますので、またご意見があれば後ほど時間があるときにでもお聞かせいただければと思います。

では、議事の1番目主な取り組み事業についてはよろしいでしょうか。では、1番目の議事についてはこれで終わりにしまして、次の審議事項に移りたいと思います。静岡市スポーツ推進計画の構成について、ということで事務局から説明をお願いします。

事務局（佐藤主任主事）

それでは事務局よりご説明します。前回の審議会では、7月に市の重要政策会議において市長や副市長等に計画の進捗状況を説明する予定でしたが、会議では他の議題もあり、十分な時間が取れない恐れがあったこともあり、副市長、市長に個別に直接説明を行いました。

現在、静岡市では来年度よりの第3次総合計画を策定中であり、静岡市スポーツ推進計画も当然第3次総合計画との整合性が求められています。市長は第3次総合計画において、スポーツ分野に重点をおいており、スポーツ推進計画の説明の際にも非常に熱心に確認をしていただきました。

今回参考資料として3-1から3-3をご覧いただきたいと思います。静岡市第3次総合計画の一部資料を用意いたしました。3-1をご覧ください。こちらは第3次総合計画の分野設定となります。1番から観光・交流、農林水産と続いていきますが、4として「文化・スポーツ」分野が挙げられています。この分野はもともと「文化・学習」分野として策定されてきましたが、市長の強い希望もあり、「文化・スポーツ」と分野の名称を変更しています。資料3-2では、文化・スポーツ分野の説明がされています。「まえがき」のあとに「現況と課題」と続き、1番は歴史についてですが、裏面にいくと2番としてスポーツ分野の現況と課題が、市民の運動・スポーツ実施率の伸び悩みと題して内容が記載され、この現況を解決するための政策として、資料3-

3の表面下の政策2および裏面上の政策3が挙げられています。政策2は「世界レベルの」という言葉からもわかるように、MICEの推進や2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2019年のラグビーワールドカップをに向けた取組みにより世界レベルのスポーツを楽しむ機会の創出について、裏面の政策3は市民目線からのスポーツ普及について述べられています。スポーツ推進計画との整合性という意味合いからすると、若干いびつなようにも取られてしまっていますが、イメージとしては、政策3の左側赤の点線で囲まれた部分の下側に「週1回以上の運動・スポーツ実施率50.7%から68%」とされ、ここが基本的にスポーツ推進計画は政策3の部分とリンクするような形になっており、その中でも世界レベルのスポーツという部分に脚光が当てられて、政策2へ特だしされている、といったイメージとなります。いずれにしましても、スポーツ分野は静岡市第3次総合計画の中においても、非常に重要なポジションにあると行うことができると思います。

簡単に第3次総合計画の説明をさせていただきました。それを踏まえたうえで、資料2「静岡市スポーツ推進計画の構成」をご覧ください。今回修正したところは何点かありますができるだけ朱書きもしくは赤色の丸によって示してあります。順を追って確認します。まず資料左上ですが、計画期間の記載がありませんでしたので、この計画の期間である平成27年度から平成34年度を記載しました。次に資料真ん中「施策の柱」部分について、「する」「みる」「ささえる」の枠及び文字の色が全て同じ色であったため、それぞれの対応する丸の色と合わせました。また、中央部分の「スポーツでまちを元気にする好循環の創出」について、循環している様子をわかりやすくするために円形とし、その周りに循環を表す矢印を挿入しました。この部分での赤丸はいずれも変更した部分を図示するためだけのものとなります。

次に、資料左側【基本施策】の部分ですが、一番上の枠「(1)子どもの体力を向上させる機会の創出」からつながる部分ですが、副市長より「トップアスリートによるジュニア等の育成機会の創出」があった方がよいのでは、という意見があったため付け加えました。

一番下まで下がっていただいて、「(6)スポーツ活動を推進するための支援」からつながる部分「スポーツ環境の整備」の後ろに「(施設の長寿命化)」を付け加えました。これはアセットマネジメントを意識してのものです。アセットマネジメントとは、計画的な整備や維持管理を行うことで公共施設の寿命を延ばし、長期にわたり安心・安全に利用できる施設を提供するとともに、公共施設の利用促進や複合化・統廃合を進めることで、市民サービスの維持・向上と将来の財政負担の軽減を図る取り組みのことです。人口もどんどん減っていく中で新しい施設を作るだけでなく、今ある施設も統廃合をしながら活用しなければならない、ということです。

次に、資料中央上の「(1)子どもの体力を向上させる機会の創出」部分と、資料右下「総合型地域スポーツクラブの育成支援」と「スポーツナビシステムの構築」部分にある「重点施策」についてですが、この計画は8年間の計画ということもあり、8年間同じ重点施策をおくのではなく、毎年の見直しもありますけれども4年ごとなどに振り返った時に、その時点でどこに重点を置かなければいけない、また違う時点ではどこに重点をおかなければいけない、ということで、最初の段階ではあえて重点施策という文言を入れない方がいいということで、重点施策という文言を取り外しました。

最後に、資料左下「期待される効果」についてです。副市長から、スポーツ推進計画は市民一人1スポーツすることを最終的な目標とすることはもちろん重要ですが、それにより生み出され

るものがあるのではないかと指摘があり、「市民の健康増進」次に「トップアスリーの輩出」そして「スポーツを通したまちづくり」これらが市民一人1スポーツが浸透すると、だんだん効果が出てくるのではないかとということで加えさせていただきました。

これらが今回、変更した点になりますが、今後9月22日に再度市長に確認を取る予定になっております。その際の市長の意見により変更が加わる可能性もあるため、その際には再度提示したいと思っております。

事務局からは以上になります。

村越会長

丁寧な説明ありがとうございました。もう1回おさらいいたしますと、上位の計画である静岡市第3次総合計画の説明をいただきました。その計画とこのスポーツ推進計画との整合性ということでお話をいただき、市長、副市長のヒアリングを経て若干構成が変わった、ということでよろしいですかね。まずは何かご質問等ありますでしょうか。細かいご意見等はまた伺いますけれども。

山本委員

「期待される効果」の中で、上の2つはとてもよく具体的でわかりやすいと思うんですが、3つ目のスポーツを通したまちづくりは具体的にどういうことでしょうか。

村越会長

よろしいでしょうか。いいところを突いていただきました。それをこれからみんなでやろうと思っていました。他はいかがですか。

真ん中のところは図柄とかグラフィックの変更ですね。あとは基本施策に関しては一番上のトップアスリートと、最後の環境整備。重点施策に関しては8年間の計画なので、ここからのラベルづけは外した、ということですね。ではご質問に関してはよろしいですか。

では、今質問が出た件もありますけれども、あたらしいところとして目標を通して市民生活がどうなるのか、「期待される効果」が3項目あります。上の2つは文字通りには理解できると、でもよく考えてみると市民の健康増進とは病院に行かないことなのか、それとも生き生き過ごしていることなのか、というようにもう少し突き詰めて考えるとやはり曖昧とした部分があると思うんですね。トップアスリーの輩出もそれ自体はよく分かるんですけども、まちづくり或いはスポーツ振興という観点から考えると、トップアスリートが生み出されることによって我々の生活はどう変わるのか、どんなハッピーになれるのか、そういうことを考えてみる必要があるのかな、と思います。また、今山本委員からスポーツを通したまちづくり、これはよくスポーツ振興計画に出てくる文言ですけども、一体どんなまちができるのか、我々はそこで幸せな暮らしができるのか、と、こういうことを考えてみるとなかなか漠然とした部分もありますし、当然漠然としているとスポーツ行政としても具体的にどんな施策を打っていかうかというのを考えにくい部分もあると思います。折角質問していただきましたので、今日は残りの時間もたくさんありますので、ワークショップ形式で皆さんと一緒に考えてアイデアを出してもらおうと思います。全てが採用されるわけではないので、我田引水的な意見もどんどんいただいて、そんな中からスポ

ーツ行政として拾える、こんなイメージのまちづくりができるんだなということが出てくればい
いかな、と思います。そのための用紙を用意しました。私を入れて委員が12名いますので、2人
組でやりたいと思います。やり方を簡単に説明しますと、2人組で10分くらいイメージを出して
いただいて、6グループありますので各グループどんなポイントが出てきたかを1グループ2、3
分で紹介していただく、そんな形になると思います。席の移動が大変ですので、私が山本委員の
ところに行って、あとは2人ずつペアになっていただく、と。話し合う内容についてもう少し具
体的に言いますと、例えば1番目では「市民の健康増進」と書いてありますが、市民が健康に暮
らしているとはどんな状況なのか、あるいはスポーツがそこにどんな貢献をしているのか、2番
目は静岡らしいトップアスリートとはどんなアスリートなのか、また市民はそれを実感するこ
とができるのか、逆にそのアスリートは静岡に対してどんな思いをもって世界の中で戦っていく
のか、3番目はスポーツを通じてどんなまちが生まれたら皆さんはハッピーなのか、そしてそこ
で皆さんはどのように暮らしているのか。妄想で結構ですので、でも自分が10年後、20年後にそ
こに暮らしていたらきっといいまちなんだろうな、と思えるような妄想をぜひ考えていただき
たいと思います。もう1回簡単に確認しますと、1番目としては市民が健康に暮らしているとはど
んな状況なのか、スポーツがそこに貢献しているというのは具体的にどんな場面なのか、2番
目は静岡らしいトップアスリートとはどんなアスリートか、その選手は静岡に対してどんな思い
をもって世界で戦っていくのか、市民はどんな場面で実感できるのか、3番目はスポーツを通
じてどんなまちができたらハッピーなのか、そこで皆さんはどんな暮らしをしているのか、また
はできるのか、そんなことを自由に、全てを網羅的に全部書くのは難しいと思います。ペア
の中で話題を絞っても結構ですし、考えても出てこないこともあるかもしれません。それでは
時間を区切りますので10分でお願いします。ペアの相手はわかりますかね。では事務局
の方でタイムキーピングをお願いします。

(ワークショップ)

村越会長

では、そろそろよろしいでしょうか。堀委員、青木委員の方からペアどちらかから発表して
いただきますが、実際に出たアイデアをそのまま生の形でも結構ですし、それを踏まえて施策の中
に、こういう事業があってもいいんじゃないか、という形でも結構ですし、形式は自由の方が
今出たなるべくビビッドな意見が反映されるのでは、と。では、よろしいですか。

堀委員

イメージでお話しするのでうまく言えないですけど、一番上の市民の健康増進については、例
えば行ったことはないですけど、セントラルパークなんかには人が集まっているいろんなことを
していますよね。その中に健康の定義というか、自分で立って歩けるという状況をいつまでも
継続していきたいと、それがウォーキングであったりジョギングであったり、と言った時に、
発展していきけるというイメージがいいな、と。そのための一つの状況としていくつも静岡
市内にいくつも人が集える公園があって、そこでウォーキングする人、ジョギングする人、
中には体を動かさない人もいるので、芝生の中でそういうのを見て楽しんでいる人も
いると。静岡でいうと駿府城公園

がありますけれども、それだけではなくていろんなところにそういうものがあって、いろんな地域の方が集ってそこで楽しめる状況があるといいな、とそんな話をしました。やる人も見る人も興味や関心の場の共有ができるといいなという話をしました。

2番目のトップアスリートの輩出なんですけれども、今サッカーで言うとエスパルスがあり、バスケで言うとシャンソンがあり、というのがありますが、競技を限定せずに、エスパルスのような状況を、お金をかけるかかけないは別にして、単純に楽しんでスポーツをするレベルからトップのレベルまでの、バレーボールならバレーボールの一つの地域クラブがあって、静岡と言うとそういうクラブがいくつもあって、底辺からトップまで頑張っていて活動しているぞ、と。またトップの人たちのために市民が例えば寄付をしながら支えているぞ、と、そういうイメージが作れたらいいのかなという話をしました。

3つめのスポーツを通したまちづくりですけれども、例えば今日この審議会が終わった後に走りに行こうかなという気持ちになった時に荷物を置ける場所があったり、サイクリングをしたいなと思えば自転車を貸してくれるところがあったり、そんな拠点がいろんなところであって、いつでもそこに行ったら必ずできるよ、という場が用意されているといいかなと、そんな話をしました。雑駁ではありますが以上です。

村越会長

いろんなイメージが出ました。また共通点等を後で少しまとめたいです。では、次に池谷委員、石川委員ペアをお願いします。

石川委員

最初の市民の健康増進につきましては3つありまして、まず当然健康寿命ということで、長生きするということになりますので、医者にかからなければ当然医療費の抑制が一番期待される効果かなと思いました。2つめは、当然長生きされることなので、スポーツを通していろんな人と知り合い、コミュニケーションが深まっていくという、そういった人間関係の構築、人の輪ができるということが2つ目の効果ということで。3つめの効果としては、皆さん健康で長生きすれば地域、家庭が自然と明るくなるんじゃないかな、ということで考えました。

2番目のトップアスリートの輩出につきましては大きく2つありまして、1つめは当然トップアスリートを輩出すれば地域の知名度アップ、イメージアップにつながると。エスパルスしかりシャンソンしかり、地元の誇りということで、市民が持てるのかなと。2つめはトップアスリートが出ることによって小さな子ども、それと今一生懸命スポーツをされている方の励みにもなると、また当然大きな影響をあたえると、それによりスポーツ人口の増加、スポーツの普及につながっていくと、というようなことを考えました。

3番目のスポーツを通したまちづくりにつきましては、これは大きく3つございまして、1つめはやはり市民の一体感やまとまりがスポーツを通してできるのではないかと。2つめはスポーツを誘致する場合、当然市だけではなく企業の力を借りたり、スポンサーの力を借りたり、それと各種団体それと当然市民の皆さん、このように多くの方たちからいろんな形で支援していただくという輪の形成が図られるのではないかと。それから3つめは、そういうようなことをおこなっていけば経済効果がアップしていくのではないかと。例えば飲み屋にしても、プロ野球の楽天

じゃないですけども、経済効果が出るのではないか、そのようにまとめました。以上です。

村越会長

はい、ありがとうございます。では、次、太田委員、佐藤伊都子委員お願いします。

佐藤（伊）委員

一番上の健康増進については、数の多い高齢者を中心に考えるといいんじゃないかということです。高齢者のための教室、高齢者の通院を減らすためにはどうしたらいいかということで、デイサービスで体操をしたり、普段空いている公民館や児童館を使って巡回体操教室のようなことをしたりして運動したいけど遠くまで出ていけない高齢者にも手軽に運動を楽しんでもらえるようなことを、考えていけるといいのではないかという話をしました。

トップアスリートの話は後にして、スポーツを通したまちづくりを考えた時に先ほどより出ているように地域と行政と市民の連携がないと、なかなかスポーツを通したまちづくりは難しいのではないかというのがあります。健康増進、トップアスリートの輩出、スポーツを通したまちづくりいずれを取るにしてもやはり後ろ盾というか、本気でこの「期待される効果」を出そうとしたらお金が必要になるので、後ろ盾がない状態でこれをやりますと言ってもいいのかなと、心配されるところです。

それで、先ほど後回しにしましたトップアスリートのところですが、計画表を見ると一人1スポーツをするとトップアスリートの輩出が期待できるという流れになっているので、少しどうなのかな、というところが。矢印でつなぐには難しいのでは、という話をしました。

村越会長

はい、では次に佐藤栄作委員と瀬戸協委員お願いします。

瀬戸協委員

1番最初の市民の健康増進のところで、やはり高齢者とか障害者の中で外出できないといった場合に、どう運動させるかを考えた時に、イメージとしてはそもそも移動が一番大変なんじゃないかと。ならば巡回バスなど走らせることができないか、と。幼稚園バスでもなんでもいいんですけども、あるものをうまく活用してソフトの部分の部分をうまく立ち上げて運動に行かせることができないかな、と。

3番目に先にいきますが、スポーツを通したまちづくりのところで、津波などの災害でもそうですけど、いろんなところでつながりとか言われているのですが、いろんな世代間の人たちが一緒に運動するというのが昔あったように、運動会のような、継続的でも一過性でもいろんな世代の人が一緒に運動するというのを地域でつくることができないかな、と。

それからトップアスリートについては具体的ではないですが、今も行われていることですけどもエスパルスならエスパルスが持っているノウハウが教育でもなんでも活かされて、プロが持っているものが身近に感じられるような形になるといいんじゃないかな、と。

村越会長

それはトップから一般の方に、ということですか。

瀬戸協委員

そうです。小さい世代の教育の中に活かされる。正しいことが身近に教えられるという形ができないかな、と。

村越会長

はい、ありがとうございます。では松崎委員、百瀬委員お願いします。

百瀬委員

はい、まず市民の健康増進というところは一見わかりやすいように今までもありますが、疾病率が低下するとか、そういったことがあるかと思いますが、この辺をもう少し具体的にスポーツをすることによって、何に、どんなところに効果があるのか、といったことを市民の方たちに伝えていくことが必要ではないかと考えました。健康というと寿命とか体の面ばかりにイメージがつくかもしれませんが、もう少し心の面とか、心身両面の。運動すると認知症にも効果があるというような、もう少し具体的なことを提示していくことが必要ではないかと思いました。

次のトップアスリートの輩出に関しては、イメージしやすいように誇りであるとかシンボルであるとか、市民の憧れの存在になるような。また、トップアスリートが輩出されれば直接的に関わりがなくても自分たちも元気になれるというようなことがあると思います。そこまでは皆さんと同じだと思います。全体的な市民の健康増進、トップアスリートの輩出、スポーツを通したまちづくりというのはぜひ推進していきたい、支援していきたい。ここからは危険な部分というか、考えていかなければいけない部分をお伝えしたいと思います。まず、トップアスリートといってもジュニアに力を入れていったりした時に、我々にとっては憧れになってくれる人たちですけれども、その人たちが抱える重圧というかそこに従事していく労力といったら計り知れないものがあると思います。トップアスリートを輩出するのであればそれなりのフォローを、単純にスポーツの力を上げればいいのではなくて、心の面でのフォローであったりとか、あとは最終的には引退を迎えればトップアスリートでなくなることは必然なので、人生というかライフステージに合わせたフォローといった体制も一緒に用意していくということが大切なのではないかと。特にジュニアの場合には保護者へのフォローも必要だなと考えるところです。スポーツをやっているとトップアスリートというのはすごく憧れだし、目に見えて大事というところだけれども、ほんの一握り出るか出ないかというものなので、それ以外の人たちはどうなっていくかということを見ると、この会議でも何度か話題に上がっている、二極化ということを生んでいる可能性もあって、トップアスリートになれなかったらどうするのか、その部分が多分子ども達の間でもあられるかもしれない、苦手だからスポーツはやらない、といったようなちょっと両極になっていく可能性をはらんでいるということをよく考えたうえでトップアスリートの輩出というところにむかっていく必要があるんじゃないかなと。またその二極化も踏まえてなんですけど、あまり勝利至上主義に走っていくとまた二極化を生む可能性があるんで、そもそもスポーツはどうして楽しんだらうと言うと、個人の成功体験が一番あると思うんです。その原点を忘れずに啓蒙していけ

るようなスポーツ指導者の養成とか資質を保っていくという、どうしてもスポーツをやっていくと勝利至上主義に走っていくと思うので、そのいい部分とそれに対して付随していく弊害というのもきちんと指導者がわかっていないといけないんじゃないかと考えました。指導者が分かった上で市民が意識改革していければ、上手じゃなくてもスポーツをやっているんだ、どんな人もスポーツを楽しんでいけるんだと、そういった気持ちの一体感につながっていくんじゃないかと。それが静岡らしいトップアスリートというか、静岡らしいトップアスリートのまちというものにできあがっていけばいいんじゃないかなと。以上です。

村越会長

では最後に私たちのところはですね、オーバーラップしているところもありますけれども、まず市民の健康増進については、高齢者のところは他のグループでも出てきたように重要なことで、それともう一つ中年層、我々もそうですけれども、40代50代になると健康に対して自信がなくなってきて、新聞を開いても朝起きるのがつらいとかという項目ばかりですが、そういうのを薬ではなくてスポーツを通して何とかできないかな、と。内容は具体的には思いつかなかったんですけども、高齢者の部分はありがちだけれども、一番疲れているのは中年くらいではないか、そこに対して何かできないか、これは話題で終わってしまいました。

トップアスリートのところで言うと、あがったことはだいたい似ているんですけども、エスパルスとか、シャンソンとかそういう選手を活用することで、これは推進計画にも載りましたけれども、そういう選手から指導されることで選手に対する親しみもわくし、それを通して試合を観に行こうということになるから当然トップアスリート側にもメリットがあるだろうし、子ども側にとってもすごい憧れの選手がいるという部分が重要なこと。また選手そのものにとっても、自分はそういう存在なんだと、ある意味正しいエリート意識を持ってもらえるんじゃないかと。これはトップアスリートの輩出とまちづくりの関係のところから出てきました。

それからそもそもまちづくりってなんだろうという話が出て、よく聞くけどスポーツを通したまちづくりって分かりにくいね、という時にスポーツを通して生活が楽しくなるとか、生きがい生まれるとか、仲間とのコミュニケーションとかって結構大事ではないかと。前も話題に出ましたけれども、スポーツ実施率は決して低くはないのだけれども、中には1人でウォーキングとかジョギングだけで終わっている人もいるだろうという時に、やはりコミュニケーションを取るクラブ自体の組織もそうでしょうし、もう一つは場があるといいですね。これは堀委員のところでも出ましたけれども、例えば〇〇公園に行くといろんなスポーツをやる人が来ていて、時にはそこでイベントがあったりしてそこで他の人とつながるようなこともできる。或いは簡単なことと言うとジョギングとかウォーキングとかコースが静岡市にはあまりないというか広報されていないけれど、そういうものがあるとして、そこに行けばいろんな人が来る可能性があって、そこにコミュニケーションが生まれる可能性もあって、そういう輪づくりが生まれるといいなということが出ました。他に何かありましたかね。

山本委員

あと、トップアスリートの輩出とかスポーツを通したまちづくりのところから思ったのが、エスパルスとかシャンソンの選手の活用をと思ったこともありましたし、チームの中にも地元出身の

選手がいたりするとやはり応援したくなる気持ちも強くなると思うので、トップアスリートの輩出というところでは、今既に活躍している選手ではなくて、中学生とか小学生とか若い世代の人たちのタレントの発掘もできたりするといいいかな、という話もありました。

村越会長

以上 6 グループからそれぞれ発表をいただきました。たぶんの他のまちのスポーツ推進計画にはない生き生きとしたいい論点がたくさん出ていたと思います。ただ、逆にこれをまとめるのは難しいかなと、どうやってまとめるのかという感じですがけれども、他のグループに触発されて、もっとこういう意見は、ということはありませんか。

瀬戸協委員

私、子ども達について仁川に行っていたんですけども、そこに韓国なんだけれど中華街があって、その中に一つの丘があって行ったんですね。すると、そこには多くの人に来ていて上ではジャズダンスのようなダンスをやっている、外では簡単なイベント、ぶら下がったりするようなものとか、機械を動かしたりするようなものをしていて、雨の中大丈夫かなと思いながら見ていたんですけども、その丘全体がスポーツ施設のようになっていて、ここからは後ろ向きに歩く、といったような所もあり、すごいな、と思いました。一方でアジア大会の施設も見てきたんですけども、大会の施設も作っているながら、市民のためのものもしっかりある、こういう形がいいなど。先ほど、いろんな所でいろんなことをしているという話が出た時に思い出しました。

村越会長

ありがとうございます。ほか、どうですか。

池谷委員

トップアスリートのところで、いつも思うんですけどもスターの存在って大きいと思うんですよね。例えばフィギュアスケートの羽生結弦選手。彼は東北出身で震災を乗り越えて世界のトップに立ったわけですけども、彼の存在はものすごくパワーを持っているなど。静岡の場合もし各種目別に 1 人トップスターを出したらすごいことになるな、と思うんですよね。これはグラスルーツとか市民一般とは別の話ですけども、目標に向かってみんなやっていたら静岡市はすごいことになるなど。たぶん指導者は健全育成とか健康づくりとか考えているんでしょうけれども、おそらく頭の片隅にはトップの選手を育てたいという気持ちがあって、指導していると思うんですよね。そういうのを少し刺激して、勝利至上主義ではなくて健全な勝利主義でやる、というそういうアプローチも必要かなと思いました。

村越会長

エスパルスはいかがですか。

池谷委員

できるだけ地元出身の選手でやってもらいたいと思うんですけども、いろいろありまして。

監督も大榎になりまして地元で固めて捲土重来を期してやってくれると思いますので、応援してください。

村越会長

いろいろ議論は非常に広く深く広がったと思いますけれども、私なりに少し整理させていただくと、全体を通してのキーワードとして「つながり」、今風に言うと「絆」という言葉になるかもしれませんが、楽しむ層からトップ選手までのつながりという、ソフト的に言うとそういったものが重要だという指摘があったと思います。また、じゃあそのつながりをどう作るかという時に、共有できる場、それは今ある運動施設のようなものではなく、もう少しゆるやかなもので、トップ選手は場合によってはそこにいるかもしれなくて、それを見たり周りでできたりするものかもしれないし、一般の選手同士がいろんな種目お互いにふれあえるような、共有できる場というのがハード的には必要ではないかと、それが結構核になっているかな、と感じました。

それからもう一つはトップアスリートのところで、池谷委員の話にもつながると思うんですけども、折角いるトップ選手をそういう中でいかに活かしていくかということがあるだろうと思います。その辺が大きく一つの中核としてまちづくりはあるのかなと思います。当然そういう中で共有できる場を通して、高齢者だとか中高年だとかあまりスポーツをしていない人も触発されることもあると思います。具体的にどうするかというとこれからの課題になると思いますし、なかなか施策には載せにくいところだと思うんですけども、そういうつながりであるとかスポーツの楽しみを共有できる場であるとか、これは今日の議論の一つのキーワードなのかなと思います。負の側面の話も非常に重要かと思われますので、期待される効果の中でこの3本柱は当然だと思いますけれども、そういうことも注意あるいは留意して進めていくということは恐らく他の二つにもありうるのかなと思います。

全体を通してなにかございますか。

青木委員

よろしいでしょうか。折角ここには駿府城公園があるので、ここを活用しない手はないかなと。ランナーとかジョガーとしては皇居よりもこちらの方がよっぽどいいんじゃないかと。ただ、ここは路面が少し硬いんですね。あそこの1,650mを結構なスピードで走ると膝にくるんですね。高齢者でウォーキングなんかしていても転倒すると非常に危険で、実際に転倒してけがをってしまった人も知ってまして、あそこを何とかすればいろんなところから人を呼び込めるんじゃないかと。私も毎日走っていますが、走っていると意外と出張で来たりしているよその方も走っていて、ここいいね、なんて話を聞いたりします。市内には他にも安倍川もありますし。海外でいうとシュトゥットガルトのまちは駅をおりともう500mくらいの幅で3kmくらい盛り上がるんですよ。そういうところは日本にはないなと。この辺でいうと愛知の岩倉に行ってきたんですけども、そこには五条川という川があってそこをみんな散歩とかウォーキングとかジョギングとかしていて本当にいいところなんですよ。それで、岩倉城址はどこでしょうかと10人位に尋ねたんですけども、みんな親切に教えてくれました。そういうところでスポーツをしていて精神が安定してくると、人にも親切になれるのかなと思いました。正直静岡で聞いても5人に1人はあまりいい対応ではない人もおりますけれども、岩倉ではみんな対応がよかったのが、

非常によかったです。

村越会長

おもてなし、というか。スポーツを共有できる場の一つの事例だと思います。他いかがでしょうか。今日はかなりワークショップですので内容が散逸しましたが、事務局はまとめるのが大変でしょうけど頑張ってください、少し力は貸しますので集約していただいて、取り入れられるものは取り入れていただいて。

それではあとは全体を通してございますか。ないようでしたら、今日はいろいろ広くご意見も出ましたので反映できるものは反映して次回提示していただきたいと思います。

それでは本日の審議事項については終了ということでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。では次に、次第3（1）の「次回の審議会日程について」事務局より説明をお願いします。

事務局（佐藤主任主事）

<説明>

村越会長

そのほかに、事務局あるいは委員の皆さんから連絡事項等はございませんでしょうか。

それでは、本日の議事がすべて終了しましたので、議長の職を終わらせていただきます。ご協力、ありがとうございました。

司会（鈴木課長補佐）

会長、ありがとうございました。また、長時間にわたりご審議をいただき、ありがとうございました。本日の会議録でございますが、会長並びに松崎委員に内容等を確認し、ご署名をいただいたうえで、静岡市ホームページに公開させていただきたいと思います。改めてご了承くださいますよう、よろしく申し上げます。

それでは以上をもちまして、平成26年度第2回静岡市スポーツ推進審議会を終了いたします。お疲れ様でした。気をつけてお帰りください。